「名医、順庵」（第５学年）

主　　題：みとめ合う心

内容項目：Ｂ－（11）相互理解，寛容

ね ら い：互いに認め合うために相手の立場や気持ちを受け入れ、広い心で人と接しようとする態度を育てる。

**○基本発問**　　**◎中心発問**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動・発問と予想される子どもの反応 | 指導上の留意点・評価の場面 |
| 導入 | １　「広い心」に対するイメージを共有する。**○「広い心」をもった人とはどんな人でしょうか。**【予想される子どもの反応】・困っていたら手伝ってくれる人。・譲ったり貸したりしてくれる人。・謝ったら許してくれる人。 | **問題意識をもつ**・「広い心」について発問をすることにより、本時で学ぶ道徳的価値である「広い心」について問題意識をもてるようにする。 |
| 展開 | ２　資料を読んで、道徳的価値について考える。**○自分が順庵だったら、高麗にんじんを盗んだ孝吉に対し、どういう対応をしたと思いますか。**【予想される子どもの対応】・盗みはやはりだめだから許さない。・黙って高麗にんじんを盗み、その理由を言わないから怒る。・理由が分からないから話をまず聞く。**◎順庵は孝吉が母のもとに行くことをどうして許したのでしょうか。**【予想される子どもの反応】・盗みはだめでも母を思う気持ちが伝わったから。・医者として人を助けたいと思ったから。・孝吉が悩んでいることに気付けなかったことに後ろめたさを感じたから。**○それでは、最初の自分の考えと比べてみましょう。「広い心」をもった人とはどんな人だと思いますか。**【予想される子どもの反応】・人の過ちを許せる人。・相手の立場に立って考え、言葉をかけられる人。３　自分の心を見つめる。**○「広い心」について考えたことを書きましょう。**【予想される子どもの反応】・相手の置かれた立場を理解することで、間違いを許すこともできるのではないか。　・誰にでも間違いはあり、自分もそうであることが分かっていることが大切なのではないか。・相手の間違いを受け入れながらも、だめなことはだめだと正しいことを伝えることも大切だ。・一つ間違えただけで、相手を否定するのではなく、相手の状況を理解しようとできることが、広い心ではないか。 | ・「自分が順庵だったらこの後どんな対応をするか」と投影的に問い、グループで考えを交流させることで、多様な考えや意見に接し、自分の考えを深められるようにする。**自分との関わり**・順庵が許した理由について、母親を思う一人の人間としての立場、病人を治してあげたいという医者としての立場、弟子の悩みに気付けなかったことに後悔している順庵自身の立場などなど、様々な立場から考えることを通して、順庵の思いを多面的・多角的に捉えられるようにする。**多面的・多角的**・三人組等で話し合い、他者の意見を聞くことで、順庵の気持ちを多面的・多角的に考えさせる。・順庵は孝吉の何を許したのかを考えさせる。●評価の場面孝吉の置かれている立場を理解し、順庵が許した理由について考えられるようにする。順庵がどうして許したかを考えることを通して、相手の意見を素直に聞き、相手の立場に立って考え、相手の過ちなどに対しても、広い心で受け止めることについて考えることができているか見取る。・板書してある導入時の「広い心」についての考えと今の考えを比較させ、その変容に気付かせる。・孝吉を許した順庵の「広い心」について考えることを通して、自己の生き方について考えを深められるようにする。**自己の生き方** |
| 終末 | ４　教師の説話を聞く。 | ・相手の過ちに対して、置かれた状況や心情を汲み取り、許した教師の経験を話す。 |